令和2年度　学校評価

伊予市立中山小学校　　令和3年2月

【評価基準】　A：目標を達成(80%以上)　B：おおむね達成(60%以上)　C：あまり達成できていない(60%未満)

項目	小項目 （重点目標）	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果			
							4	3	2	1
仲間を大切にする子　徳	○生命の大切さを自覚する道徳教育の推進	○命の大切さを感じ取り、生命あるものを大切にしている。 【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	A	○「命は一つ」の合い言葉をもとに、教職員全員が共通理解を図り指導することができている。 ●今年度も、人権・同和教育の視点にたった参観日を実施したが、新型コロナウイルス感染予防のために廊下からの参観であり、授業を見てもらいにくかったようだ。来年度も、授業中や授業後の児童の発言や変容を学年便りに載せ保護者に伝えるように努める。また、学年便りや学校便りに道徳コーナーを設けて、児童の様子を継続して伝えるようにしてはどうか。児童については、各学年で学期末等に道徳科で学んだことや自分の成長についてのふり返りを行い、自己肯定感を育てるようにしていきたい。	教職員アンケート	A	80	20	0	0
					保護者アンケート	A	36	58	6	0
					児童アンケート	A	53	41	6	0
		○いじめの早期発見・早期対応・未然防止に努めている。 【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	A	○コロナ禍の臨時休業中も電話や家庭訪問等で適切な対応や連携ができた。心のアンケート・情報交換・職員室の会話等がよい予防・修正等につながっていると思われる。	教職員アンケート	A	100	0	0	0
					保護者アンケート	A	28	72	0	0
					いじめ・不登校状況	いじめ・不登校　0件				
	学校関係者評価委員の所見	○人権・同和教育の参観日に、保護者がたくさん参加して熱心に話を聞いていた。自分も参観させてもらったが、この授業で、何を子どもたちに教えたいのかが分かりにくかった。授業の目標をもっと分かりやすくしてはどうか。 ○担当している地域の児童が減り、子どもたちと出会う機会もほとんどない状態である。そんな自分が学校関係者評価委員会として子どもたちの評価をしてもよいのかと疑問に思っている。		学校の対応	○参観のしおりを各学級ごとに配付して事前に見ていただくようにしているが、今後は全学年の参観のしおりをまとめて、保護者や評価委員の方へ配付する方向で検討したい。 ○命を大切にした安全な生活について、今後も継続して「命は一つ」の合い言葉の下、自他の命を守る仲間づくりや安全教育に取り組んでいく。 ○いじめについては、些細なトラブルであっても子どもに寄り添い、誠実に対応し解決することで、いじめの芽を摘み取っていきたい。					

【評価基準】　A:目標を達成(80%以上)　B:おおむね達成(60%以上)　C:あまり達成できていない(60%未満)

項目	小項目 （重点目標）	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果			
							4	3	2	1
仲間を大切にする子　徳	○一人一人の可能性を伸ばす特別支援教育の充実	○児童一人一人の実態を把握し、個に応じた指導を行っている。 【目標値】 ○教職員・保護者の8割以上が肯定	A	○職員会等で、児童の実態や、配慮が必要な児童についての共通理解を図っている。伊予市特別支援教育巡回相談員（月1回）や、教育相談員（週1回）のアドバイスを受ける機会があり、個に応じた指導に生かしている。安全確保のために学校生活支援員を配置し合理的配慮を行っている。	教職員アンケート	A	60	40	0	0
					保護者アンケート	A	30	66	4	0
	○つながり合う力を育む縦割り班活動・交流活動の充実	○豊かな関わりを育む異年齢集団活動が充実している。 【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定 ○異年齢集団活動を実施可能な時間数(月2回)に対して9割以上実施	A	○縦割り班活動では、縦割り班遊びや清掃、2学期の遠足などを行っている。縦割り班遊びでは、高学年を中心に遊びの計画をし、学年の枠を越えて、元気よく遊ぶ姿が見られる。また、遠足では、高学年が低学年の様子を気遣い、優しく励ましの声を掛ける姿が見られた。異学年と交流することで、豊かな心情が育まれている。	教職員アンケート	A	60	40	0	0
					保護者アンケート	A	54	44	2	0
					児童アンケート	A	72	26	2	0
					異年齢集団活動(2学期)	月平均　3.5　回				
		○友達に対して思いやりのある行動や言動がとれている。 【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	A	○ソーシャルディスタンス等が配慮される中、社会の状況に応じて、適切に交流活動が実施されたと思われる。縦割り班での交流により、言葉や行動を考えながら、豊かな情操が養われた。少人数及び小集団なので、互いの心や思いの行き違いがないように今後も気を付けたい。	教職員アンケート	A	0	100	0	0
					保護者アンケート	A	32	62	6	0
					児童アンケート	A	26	59	15	0
	学校関係者評価委員の所見	○コロナ禍の中での活動は、大丈夫なのかと少し心配している。		学校の対応	○児童数が少ないので、学年に応じた声掛けをしている。給食は黙食、授業はアクリル板で囲いをして飛沫が飛ばないようにしている。 ○今後も異年齢集団での縦割り班活動を積み重ねていくことで、互いを思いやる仲間づくり、いじめを許さない、いじめに負けない仲間づくりを目指していきたい。					

【評価基準】　A：目標を達成(80％以上)　B：おおむね達成(60％以上)　C：あまり達成できていない(60％未満)

項目	小項目 （重点目標）	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果			
							4	3	2	1
考え 表現する子 知	○少人数を生かした学習指導の工夫と基礎・基本の徹底	○発達段階に応じた基礎的な学力が身に付いている。 【目標値】 ○教職員・保護者の8割以上肯定 ○漢字・計算検定で9割以上の児童が合格(合格90点) ○自主学習ノートの活用回数(低：週3回以上、中週4回以上、高6回以上)	A	○漢字検定・計算検定とも目標値を上回っており、目標を達成することができた。 ○どの学年も学年に応じて自主学習に取り組むことができており、学習する習慣がついてきている。 ○算数ぐんぐん学習が浸透しており、児童の学習進度に合わせて取り組めるので、定期的に見直しをして改善しながら継続していく予定である。 ●学び方について、教職員間で意識統一を図った上で、年度始めに家庭にも学習の手引きを配付していきたい。	教職員アンケート	B	0	75	25	0
					保護者アンケート	A	26	60	12	2
					漢字検定	A	90点以上 学年平均91％			
					計算検定	A	90点以上 学年平均89％			
					自主学習ノート （回数）	A	学年平均81％			
		○家庭での学習にしっかり取り組んでいる。 【目標値】 ○家庭学習時間(低30分、4年以上は学年×10分以上) ○保護者・児童の8割以上が肯定	A	○家庭学習時間では、各学年の目標時間を達成している児童がほとんどである。 ●自主学習の内容が、一人一人の学力を向上させるためのものになっていない場合もあった。学年の発達段階に応じて、自主学習の仕方を見直すとともに、内容例や工夫して学習している児童のノートを紹介して、自主学習の内容の充実を図っていきたい。	家庭学習時間	A	学年平均89％			
					保護者アンケート	B	20	58	18	4
					児童アンケート	A	92			8
	○主体的・対話的で深い学びに向かう授業の充実	○教師一人一人が「主体的・対話的で深い学びに向かう」授業づくりに努めている。 【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	A	○国語科の授業改善に取り組んでいる。研究授業を実施し、児童が課題に自ら「かかわり」、友達と「かかわり」ながら、新たな考えを「つくりだし」、他教科や日常生活に「つながる」学習について、講師の先生から助言や指導をいただきながら、研究協議を行った。今後も引き続き、授業力の向上に努めたい。 ●発達段階に合ったよりよい対話や、深い学びにつながる「活用する力」をつける学習について、今後も研究を進めたい。	教職員アンケート	A	11	89	0	0
					保護者アンケート	A	16	82	2	0
					児童アンケート	A	48	43	9	0
	○語彙力を高め、自分の思いを伝えきる表現活動の充実	○自分の思いを相手にはっきりと伝えることができている。 【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	B	○豊かな言葉の力を育む授業改善や読書活動の充実を図ることで、児童の語彙力を高められるよう、指導の工夫をしている。少人数で表現活動を行うと、聞き手が少なくなり、十分なフィードバックが与えられない場合もあるので、タブレットを使って表現活動を動画撮影し、振り返りに利用する等、工夫を行っている。 ●伝え合いには、語彙力だけでなく、自分の考えや思いをしっかりと持つことや意見を伝えやすい支持的風土を育てることも必要である。それらを十分ふまえた上で、表現の場を充分に保障していきたい。	教職員アンケート	C	0	50	50	0
					保護者アンケート	B	12	51	35	2
					児童アンケート	B	17	49	26	8
	学校関係者評価委員の所見	○児童数が少なくなっているのもあるが、一人一人への対応をきちんとしていて、今の学校の先生たちはすごいなと感じている。		学校の対応	○児童数が少ないことを本校の強みと考えて、一人一人に応じた指導をしていきたい。来年度からは、一人1台タブレットが使えるようになるので、これを生かして個に応じた対応をさらに研究していきたい。 ○表現力については、中山小学校における長年の課題である。語彙力を高めることはもちろん、何でも言える仲間づくり、タブレットの活用など様々な面から支援していきたい。					

【評価基準】　A：目標を達成(80%以上)　B：おおむね達成(60%以上)　C：あまり達成できていない(60%未満)

項目	小項目 （重点目標）	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果			
							4	3	2	1
やる気で頑張る子　体	○元気な挨拶・返事・履物の整頓等生活習慣の定着	○進んで元気な挨拶ができる児童が育っている。 【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	A	○マスク着用や3密制限等により、挨拶が低調な面があったが、新しいスタイルでのコミュニケーションの第一歩として、今後も大切にしていきたい。大人と児童での意識に差があるので、特に家庭での挨拶が改善できるような手立てについて考え、実践させていきたい。	教職員アンケート	A	30	50	20	0
					保護者アンケート	B	22	48	26	4
					児童アンケート	A	47	47	6	0
					地域アンケート	A	35	52	9	4
	○様々な体力つくり活動の日常化による個に応じた体力の向上	○発達段階に応じた体力が付いている。 【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定 ○令和元年度新体力テストの課題である「立ち幅跳び」の記録が1学期より2学期で上回る児童の割合が8割以上	A	○新体力テストの立ち幅跳びにおいて、1学期よりも記録を向上させた児童が全体の8割以上だった。体育科の授業やITスタジアムの積極的・継続的な参加を通して、運動の楽しさを感じ、運動意欲が向上したことが、体力の向上にもつながったと考える。今後も発達段階に応じた体力が身に付くように、体育の授業を中心として、外遊びの励行なども行っていきたい。	教職員アンケート	A	30	60	10	0
					保護者アンケート	A	34	58	8	0
					児童アンケート	A	66	28	6	0
	学校関係者評価委員の所見	○青パトで見守りをしているが、挨拶に元気がない、声が小さいと感じている。児童数が少なくなっているから仕方ないのかもしれないとは思うが。 ○挨拶は、家庭での躾にもよると思う。(家庭の教育力) ○コロナ禍で子どもと会う機会は少ないが、出会ったときは挨拶してくれる。マスクで聞こえにくいというのはあると思う。 ○運動も、マスク着用のまましているのだろうが、大丈夫なのか？	学校の対応	○挨拶については、マスク着用の影響が大きいと思われるが、挨拶ができる子とできない子の個人差が大きく、挨拶をしても返さない子がいるので気になったという意見もあった。挨拶は、基本的な生活習慣として、身に付けなければならないスキルとして、その役割と大切さを子どもに継続指導していく。 ○体育時のマスク着用は、持久走等の激しい運動の時は外している。また、暑い時期は、熱中症対策のため必要に応じて着けたり外したりしている。						

【評価基準】　A：目標を達成(80％以上)　B：おおむね達成(60％以上)　C：あまり達成できていない(60％未満)

項目	小項目 （重点目標）	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果			
							4	3	2	1
やる気で頑張る子 体	○家庭と連携した「早寝・早起き・朝ごはん」の推進	○早寝・早起き・朝ごはんの生活習慣が定着している。 【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	A	◯毎月生活リズム調べを行い、児童の実態把握に努めている。朝食の摂食状況は「毎日食べている」児童が90％以上である。また、「朝ごはんを食べない」児童はいなかった。 ●昨年度と比べて早寝ができていない児童の割合が増えた。 ●児童アンケートでは、「1」「2」と回答した児童の割合が増えているが、自分がどのような生活をしているか自覚がでてきているのではないか。この機会を逃さないよう生活が改善されるような手立てを考え、支援していきたい。	教職員アンケート	A	20	70	10	0
					保護者アンケート	A	38	42	14	6
					児童アンケート	B	34	36	21	9
		○食生活に気を付けるとともに、健康管理に努め、毎日元気に生活している。 【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定 ○欠席0の日が年間80日以上	A	◯今年度は新型コロナウイルス感染症感染防止のため給食時間における栄養教諭の給食指導を行うことができなかったが、高学年の家庭科の授業では、栄養教諭による授業を行い、食に関心を持たせることができた。 ◯偏食のある児童が少しずつ食べられる量が増えてきている。 ◯4・5月が臨時休業になったにも関わらず、今年度の欠席日数は昨年度より減少している。新型コロナウイルス感染症流行により精神面でストレスを抱えている人がいると言われている中で、児童はよく頑張っている。この状況に安心することなく、学校でも心の安定が図れるよう連携して支援していきたい。日常的に、感染防止を徹底しているため、例年出ている感染症にもほとんど感染することなく過ごすことができている。新しい生活様式として今後も継続して指導してく。	教職員アンケート	A	20	80	0	0
					保護者アンケート	B	16	62	16	6
					児童アンケート	A	41	40	15	4
					欠席0の日	92日(2/2現在)				

学校関係者評価委員の所見	○コロナウィルス感染症対策、ありがとうございます。	学校の対応	○子どもの生活習慣については、本人の課題解決への意欲と家庭の協力が不可欠である。そのため、学校では、学力と基本的な生活習慣の関連について機会を捉えて家庭に発信し、保護者の協力を得られるよう啓発活動の継続に努めたい。 ○感染症対策は、命を守る一つの方法として子どもたちに定着してきている。今後も気を引き締めて、コロナウィルス感染症対策を続けていきたい。

【評価基準】　A：目標を達成(80%以上)　B：おおむね達成(60%以上)　C：あまり達成できていない(60%未満)

項目	小項目 （重点目標）	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果			
							4	3	2	1
学び続ける子　知徳体	○家庭と協働した学習習慣の定着と読書習慣の形成	○豊かな心と言葉を育む読書活動の推進がなされている。 【目標値】 ○保護者・教職員・児童の8割以上が肯定 ○児童の読書量が1か月8冊以上	B	○目標値には達していないが、昨年度より児童の読書量が増えている。 木曜日の朝の読書指導のときに、教職員、読書ボランティア、図書委員に よる読み聞かせを行い、児童の本に対する興味・関心を高めることができた。また、読書ビンゴの実施や、毎月、図書委員会が各学年におすすめの本を選んだり、「読書祭り集会」でおすすめの本を紹介したりすることにより、読書の幅を広げることができた。図書の貸し出し記録である読書通帳が1冊終わった児童をテレビ放送で紹介し、他の児童への啓発も行っている。 ●図書室のおすすめの本コーナーの掲示や本の紹介の仕方をさらに工夫して、読書意欲を高め、読書の幅を広げていきたい。	教職員アンケート	A	56	44	0	0
					保護者アンケート	C	14	30	48	8
					児童アンケート	A	40	43	11	6
					1学期からの読書通帳	B	月平均 9.0冊(下学年) 6.7冊(上学年)			
	○目標をもち、最後まで繰り返しやり抜く心の育成	○目標をもち、最後までやり抜く心が育っている。 【目標値】 ○保護者・教職員・児童の8割以上が肯定	A	○おおむね達成できており、昨年度に比べて保護者の評価が上がっており、学校の取り組みや児童の変容を感じているようだ。 ●教師と児童の評価が少し下がっている。様々な学校行事や日々の生活の中で、自分の目標に向かって、困難なことであっても、最後までやり抜こうとすることができるように、一人一人に応じた目標を持たせ、小さな成長や伸びをしっかり褒めるようにしていきたい。	教職員アンケート	A	0	90	10	0
					保護者アンケート	A	18	70	12	0
					児童アンケート	A	45	42	13	0
	学校関係者評価委員の所見	○読書において、いろいろなジャンルの本を読ませる工夫がよいと思う。 ○読書活動においての保護者の評価がCとなっているのは、学校での児童の様子を知らないのではないか。	学校の対応	○子どもたちは、学校では読書をしているが、借りた本を家には持ち帰らない傾向がある。また、中山っ子も、家庭では動画・タブレット・PCの閲覧が増えているのも事実である。親子読書を勧めたり、自主学習に読書を取り入れたりして、家庭での読書を増やすような努力をしていきたい。						

【評価基準】　A：目標を達成(80％以上)　B：おおむね達成(60％以上)　C：あまり達成できていない(60％未満)

項目	小項目 （重点目標）	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果			
							4	3	2	1
学び続ける子　知徳体	○郷土を愛する心を育む地域に根ざした学習活動の充実	○地域の人・自然・文化を生かした教育活動の展開がなされている。 【目標値】 ○教職員・保護者・地域の8割以上が肯定 ○地域体験活動を各学年学期に1回以上実施	A	○1年生から6年生まで、生活科、社会科、総合的な学習の時間等、様々な活動の中で、地域の自然、環境、平和等に関する学習を行った。地域の様々な場所に校外学習に出かけたり、地域の方に来校していただいたり、見る、聞く、感じる活動を通して、児童は、地域への理解を深めることができた。地域の方の温かさに触れ、児童は豊かな人間関係の中で充実した体験活動を行うことができた。地域の方のご協力に感謝し、ふるさとを愛する児童を育てるため、引き続き連携、協力をお願いしたい。 ●感染症対策を常に考えながらの体験活動となった。昨年度実施した活動をやむをえず中止せざるをえない場合もあった。引き続き感染の状況を注視しながら、児童が充分に地域について学べるよう、工夫していく必要がある。	教職員アンケート	A	40	60	0	0
					保護者アンケート	A	32	66	2	0
					地域アンケート	A	35	61	4	0
					地域体験活動	A	学年平均1.3回			
		○学校便り、学年通信、ホームページ等で学校の情報を積極的に発信している。 【目標値】 ○教職員・保護者・地域の8割以上が肯定 ○毎月1回以上学校・学級便り配付、HP更新	A	○教職員・保護者・地域の方の3者において、100％の方が肯定的な意見で、目標を達成している。月に1度の学校便り等で、小規模校ならではのよさを生かして、子どもたちの様子や頑張りがより詳しく伝わるよう工夫している。 ○特に、ホームページは、校長・情報教育主任を中心に毎日学校での子どもたちの学びの様子を発信したり、新型コロナウイルス感染症に関する情報をお知らせしたりしている。昨年度の月10回から20回と更新回数も増え、1日の閲覧数もかなり伸びている。今後も、タイムリーで分かりやすい情報発信に取り組んでいきたい。 ●学年便りは必要に応じて発行しているが、月1回の発行を目指して保護者との連携に役立つよう作成していきたい。	教職員アンケート	A	56	44	0	0
					保護者アンケート	A	40	60	0	0
					地域アンケート	A	50	50	0	0
					学校便り	月1回				
					学年便り	月0.8回				
					HP更新	月20回				
	学校関係者評価委員の所見	○地域に出かけての活動は、子どもたちの将来を考えると、とても大切だ。感染症対策をしながら、うまく工夫して続けてほしい。 ○HPを毎日更新していることを、もっと宣伝して、よりたくさんの人に閲覧してもらえるようにしたらよい。 ○今は、子どもたちが地域行事に参加しにくい状況にあるが、「どんど焼き」はよい経験になったと思う。教頭先生が、最後の後片付けまで手伝ってくれて有難かった。 ○中山小学校卒業50周年の方たちに、中山小学校卒業式に参加していただいていたが、今はコロナ禍で中断している。参加できるようになったら、今後も継続してほしい。		学校の対応	○今年度はコロナ禍によって、今まで当たり前にできていた交流や体験活動などの学習が難しい状況であった。しかし、全て実施しないのではなく、「何ができるか」「実施するための工夫」を熟慮し、新型コロナウィルス感染症対策をしっかりと講じて教育活動を行っていきたい。そして、学校、家庭、地域の連携を強化していきたい。 ○情報発信については、今後も、新型コロナウィルス感染症に関する情報を含めて、タイムリーでかつ正確で分かりやすい情報発信に努めていきたい。					

【評価基準】　A:目標を達成(80%以上)　B:おおむね達成(60%以上)　C:あまり達成できていない(60%未満)

項目	小項目 （重点目標）	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果			
							4	3	2	1
業務改善	○教育の質の向上と教職員の負担軽減に向けた取組み	○教職員は子どもと向き合う時間に集中できている。 【目標値】 ○教職員の8割以上が肯定	A	○管理職・専科・養護教諭・支援員・教員が協力してくれるので、個々の負担は軽減されている。 ○今年度は、新型コロナウィルス感染症対策のため、授業を進めることを優先したが、少人数であるため、児童一人一人に機会を捉えて関わることができた。	教職員アンケート	A	67	33	0	0
		○巡回教育相談員、ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰ等専門人材の活用と連携がなされている。 【目標値】 ○教職員の8割以上が肯定		○訪問日には、どの教員も情報共有を積極的に行い、配慮を要する児童に適切に対応することができている。 ○よく一人一人を見て、情報やアドバイスをくださるので有難い。また、小さい頃のこともよく知っており、成長や変化を教えていただけて参考になった。	教職員アンケート	A	78	22	0	0
		○教職員は自身の専門性が高まる研修に取り組んでいる。 【目標値】 ○教職員の8割以上が肯定		○職員研修が計画的に確実に実施できた。1・4・5年生の授業研究会を通してよい研修ができており、効果も出ている。 ●コロナ禍で外部の研修の機会が減っているが、リモート研修などにも積極的に取り組みたい。また、時代の流れに応じた知識や技能を身に付けたい。	教職員アンケート	A	44	56	0	0
		○教職員は健康の保持とワークライフバランスの確立がなされている。 【目標値】 ○教職員の8割以上が肯定		○全体的に時間を考えて業務に取り組んでおり、よい傾向だと思う。また、声を掛け合いながら、一人でするよりみんなでやって、作業効率も上げられるようにしていきたい。 ●相変わらず調査・報告が多いのは課題である。	教職員アンケート	A	67	33	0	0
					超過勤務時間 (月45時間)	28　時間				
					年次有給休暇が取得しやすい (年5日以上)	2.4　日				
	学校関係者評価委員の所見	○愛媛大学の「同窓会報」を読んでいて、とてもすばらしい文章を見付けたので、先生方にもぜひ読んでいただきたい。		学校の対応	○やらなければならないことは多いが、軽重を付けて取り組んでいきたい。					